

令和6年度事業報告書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

本協会は、兵庫県における科学技術振興の中核的機構として、平成4年7月に設立されて以来、県内の研究者を対象とする研究助成事業や、県民を対象とした科学技術の普及啓発事業等に取り組んできた。以下に記載の4本の柱の下、各種事業を展開した。

「科学技術の総合的な振興」については、基盤的研究から応用研究、萌芽的研究まで幅広い分野での学術研究への助成や、「ロボットコンテスト」に参加する県内工業高等専門学校への支援等を実施した。

「科学技術の普及・啓発」については、一般県民を対象にした「ひょうご科学技術トピックスセミナー」や、県内高校生を対象に理系大学生・大学院生がサイエンスカフェ形式でアドバイスする「サイエンスフレンドシップ事業」等を行った。

「地域産業の技術開発力強化・育成」については、中小企業等に対する技術相談・指導や技術高度化研究開発助成事業等により企業の技術高度化を促進するとともに、専門人材を配置して産学官連携を促進した。

「放射光研究開発の支援」では、兵庫県ビームライン及び兵庫県放射光研究センターの管理運営及び企業への県ビームラインの利用提供や技術相談・助言を行うとともに、データサイエンスと放射光の相互利用を促進した。

【理事会開催状況】

区 分	開催年月日	議 題
第63回	令和6年5月31日	令和5年度事業報告の件、令和5年度収支決算の件 評議員会招集の件
第64回 (決議の省略)	令和6年7月24日	評議員会招集の件
第65回	令和7年3月14日	令和6年度収支補正予算の件、令和7年度事業計画 の件、令和7年度収支予算の件、役員賠償責任保険 契約締結の件
第66回 (決議の省略)	令和7年3月26日	評議員会招集の件、事務局長選任の件
第67回 (決議の省略)	令和7年3月31日	専務理事選定の件

【評議員会開催状況】

区 分	開催年月日	議 題
第41回	令和6年6月18日	令和5年度収支決算の件、評議員選任の件
第42回 (決議の省略)	令和6年7月31日	評議員選任の件、役員選任の件
第43回 (決議の省略)	令和7年3月31日	理事選任の件、監事選任の件

令和6年度事業体系

【主要事業】

科学技術の総合的な振興	振興方策の総合的な企画調整	振興方策の企画立案	総合企画委員会の運営
		振興を図るための調査・情報提供	県内研究機関データ調査 協会ホームページの運営等
	学術的研究の促進	学術的研究の支援	学術研究助成事業 学術研究助成「研究発表会」の開催
		教育機関の実践的教育の支援	高専のロボコン参加への支援
科学技術の普及・啓発	普及・啓発の充実強化	科学技術の普及・啓発の推進	ひょうご科学技術トピックスセミナーの開催 国際フロンティア産業メッセの共催 機関誌「ひょうごサイエンス」の発行
		青少年に対する科学技術の普及・啓発の推進	サイエンスボランティア支援事業 青少年のための科学の祭典の共催 サイエンスフレンドシップ事業
地域産業の技術開発力の強化・育成	産学官連携の促進	産学官連携体制の強化	産学官連携コーディネートの推進 企業・大学院連携研究事業
	企業の技術高度化促進	技術高度化と研究開発の支援	技術高度化研究開発支援助成事業 技術指導事業 提案公募型産学官共同研究等への参画 ものづくりの高度化支援
		企業イノベーションの推進	中小企業交流団体等への支援事業 ものづくり共創セミナーの開催
放射光研究開発の支援	大型放射光施設SPring-8の産業利用支援	兵庫県ビームラインの産業利用の促進	兵庫県ビームライン等の管理運営 放射光産業利用の促進に向けた支援 産業利用促進のための普及・啓発
		イノベーションの創出に向けたプロジェクトの実施	マテリアルズ・インフォマティクスの活用促進 次世代電池・半導体シンポジウムの開催

I 科学技術の総合的な振興

1 振興方策の総合的な企画調整

(1) 振興方策の企画立案

ア 総合企画委員会の開催

協会運営や協会が実施する事業に関する助言を得るため、産学官の有識者で構成する総合企画委員会を開催し、中期収支計画のフォローアップ及び今後の協会事業の運営、あり方等について協議した。

○開催日：令和6年12月4日(水)

(2) 振興を図るための調査・情報提供

ア 県内研究機関データ調査

県内の研究機関等の相互連携を促進するため、研究機関等の基本情報を調査し、情報提供を行った（調査機関数：990機関）

イ 協会ホームページの運営等

・ 協会ホームページの運営

協会の活動状況や大学等研究者シーズリンク集など、地域の産業・科学技術等の話題を広くPRするため、ホームページにより、幅広く情報提供を行った。

（アクセス件数：1,144,432件）

・ 「ひょうご研究機関メーリングリスト」の運営

科学技術に関する情報を幅広くタイムリーに提供するため、登録者全員にメールが配信される「ひょうご研究機関メーリングリスト」の運営を行った。

（登録件数：117件）

・ 「播磨産業技術情報」の発行

播磨地域の産業振興、科学技術等の情報を取りまとめた「播磨産業技術情報」を、県内の企業、関係機関に提供した（月1回発行）。

（送信件数：497件）

2 学術的研究の促進

(1) 学術的研究の支援

ア 学術研究助成事業

基礎的・基盤的な研究から産業の高度化に貢献する応用的・実用的な研究及び若手研究者による創造的・萌芽的研究を奨励するため、令和6年度助成対象の研究計画に研究資金を交付するとともに、令和7年度に助成する研究計画を公募・選定した。

また、令和5年度に助成した学術研究助成について、成果報告書を取りまとめ、当協会ホームページ上に掲載し、研究成果の普及を図った。

○応募・採択件数、助成総額

区分	R6年度（交付）		R7年度（公募・選定）
	通常枠	特別枠	通常枠
応募件数	129件	—	160件
採択件数	33件	3件	33件
助成総額	33,000千円	3,000千円	33,000千円

イ 学術研究助成「研究発表会」等の開催

令和6年度学術研究助成者への贈呈式と併せて、代表者が研究計画を発表する「研究発表会」を行った。

○開催日：令和6年5月29日(水)

ウ 学術研究助成成果フォローアップ調査事業

学術研究助成事業の今後のあり方や研究結果の活用方策について検討するため、助成後2年目、5年目の助成者を対象に、研究結果の評価や波及発展の状況及び学術面や生活・産業面への波及効果等について、フォローアップ調査を実施した。

(2) 教育機関の実践的教育の支援

ア 高専のロボコン参加への支援

実践的・創造的なものづくり人材の育成に寄与するため、工業高等専門学校の実践的教育として認知度の高い「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」におけるロボット製作費用を助成した。

令和6年10月6日の近畿地区大会には、下記2校から各2チームが参加し、神戸高専Aチームが11月17日に国技館で開催された全国大会に出場。

○助成先：神戸市立工業高等専門学校、国立明石工業高等専門学校

○助成額：計800千円(神戸高専500千円、明石高専300千円)

II 科学技術の普及・啓発

1 普及・啓発の充実強化

科学技術への興味・関心を高めるため、科学技術の情報提供やセミナーなどの普及啓発活動を行うとともに、協会の活動を広くPRした。

(1) 科学技術の普及・啓発の推進

ア ひょうご科学技術トピックスセミナーの開催

一般県民を対象に、科学技術の各分野における第一人者を講師に招き、最先端の話題をわかりやすく解説する「ひょうご科学技術トピックスセミナー」を開催した。

○開催日：令和7年2月1日(土)

○会場：神戸ポートピアホテル 本館地下1階「偕楽」

○講師：福井県立大学 恐竜学研究所 准教授 河部 壮一郎 氏

○テーマ：デジタル技術を用いた恐竜研究

○参加者数：83人

イ 機関誌「ひょうごサイエンス」の発行

協会の活動を一般に広報するとともに、科学技術に関する最新的话题を提供するため、機関誌「ひょうごサイエンス」を発行した。

○発行部数：2,000部(令和7年3月発行)

○配布先：関係企業、関連機関、商工会議所、県内の公共施設・学校等

ウ 国際フロンティア産業メッセの共催

21世紀に飛躍する新産業の創出を促進し、国際的な技術・ビジネス交流を加速させるため「国際フロンティア産業メッセ2024」を関係機関と共催した。

また、当協会の支援により技術開発や商品開発に取り組んでいる企業や県内大学・高専に参加を呼びかけ、「ひょうご科学技術協会グループ」として出展し、開発製品や研究内容などを広く発信した。

○開催日：令和6年9月5日(木)～6日(金)

○会場：神戸国際展示場1・2号館

○入場者：約15,400人

(2) 青少年に対する科学技術の普及・啓発の推進

ア サイエンスボランティア支援事業

青少年の科学技術への関心と正しい理解を促進するため、理科教師、自然科学研究者やそのOB等が行う、小学校高学年から中学生の青少年及びその教育者を対象とする実験教室などの科学学習分野に関するボランティア活動に対し、助成金を交付した。

○助成件数：8件

○助成総額：939千円

○参加者数：延べ1,270人

イ 青少年のための科学の祭典の共催

楽しい科学実験や科学工作などを通じ、子どもたちが自ら体験し、科学に対する興味や関心を高めるため、県内5会場（神戸、東はりま、姫路、豊岡、丹波）において各会場大会実行委員会等と共に開催した。

○参加者数：延べ9,095人

ウ サイエンスフレンドシップ事業

大学生・大学院生が研究内容、学生生活の魅力などを高校生にアドバイスするサイエンスカフェを実施するとともに、高校生の課外研究活動等の支援を行う大学院生派遣事業を実施した。

○大学院生派遣 2回（大学院生：14人、高校生：160人）

サイエンスカフェ 3回（大学生、院生：17人、高校生：1,305人）

Ⅲ 地域産業の技術開発力の強化・育成

播磨地域の産業活性化と技術高度化を図るため、技術参与や技術アドバイザー等を配置し、大学や公的研究機関等と地域産業の交流・連携を促進し、高度技術の開発又は利用による新事業の創出や新分野への進出を支援した。

1 産学官連携の促進

(1) 産学官連携体制の強化

ア 産学官連携コーディネートの推進

産学官連携の専門人材を配置し、大学等の研究機関の研究開発シーズと企業の研究開発ニーズのマッチングのサポートや産学連携による共同研究のコーディネートを推進するなど、産学官の連携を促進した。

○主な内容

兵庫県成長産業育成のための研究開発支援事業採択に向けた産学官の連携促進
技術高度化研究開発支援助成事業採択に向けた産学官の連携促進
その他競争的資金獲得に向けた相談、技術開発のための産学官連携にかかる相談

イ 企業・大学院連携研究事業

県内大学の大学院生の資質向上や県内企業の活性化、技術の向上を図るため、大学院生が行う県内企業との産学共同研究を支援した。

○助成件数：4大学、7テーマ

○助成総額：1,858千円

2 企業の技術高度化促進

(1) 技術高度化と研究開発の支援

ア 技術高度化研究開発支援助成事業

播磨地域に事業所を有する中小企業等が、新分野進出や新事業創出を図るために取り組む新技術・新製品の研究開発事業を公募、選考し、助成金を交付した。

○助成件数：4件

○助成総額：5,000千円

イ 技術指導事業

播磨地域の中小企業が抱える多種多様な技術課題について速やかに対処・解決するため、機械や化学などの専門家を技術参与やシニアアドバイザーとして配置し、企業訪問や電話などによる技術相談・指導を行った。また、企業ニーズと大学等のシーズとのマッチングを支援することにより、産学共同研究の推進を図った。

○相談・指導件数：238件

ウ 兵庫県成長産業育成のための研究開発支援事業等への参画

企業の新技術や新製品開発を目的として、産学官連携による共同研究プロジェクト等を構築し、成長産業育成のための研究開発支援事業へ代表機関として応募するとともに、採択されたプロジェクトを効果的に進めるためにコーディネートを行った。

○プロジェクト件数：2件

○補助金交付額：計11,000千円

エ ものづくりの高度化支援

ものづくり支援センター播磨の管理運営の委託を受け、中小企業の生産性向上支援を推進するとともに、ものづくり関連機器(走査型電子顕微鏡)の管理運営及び技術指導、機器利用講習会を開催した。

○利用件数：92件

○機器講習会：4回開催、延べ7人参加

(2) 企業イノベーションの推進

ア 中小企業交流団体等への支援事業

はりま産学交流会が実施する創造例会等を共催するとともに、中小企業交流団体等が播磨地域の産業技術高度化を図るため実施する講演会・研修会等、技術交流に係る各種事業を支援した。

○主な事業 はりま産学交流会事業の支援（共催）

その他セミナー、シンポジウムの支援

イ ものづくり共創セミナー

製品の企画・研究・開発・生産を、消費者や連携企業、大学・研究機関、自治体など様々な関係者と協力して行うことで、新製品の開発や多様化するユーザーニーズへの対応など、新たな価値を創出するという取り組みを推進することで地域の活性化に資することを目指して、ものづくりの高度化や新産業の創出に繋がる技術、情報を紹介する「ものづくり共創セミナー」を、関係団体と共に開催した。

○開催回数：2回

○参加者数：131人

IV 放射光研究開発の支援

1 大型放射光施設SPRING-8の産業利用支援

(1) 兵庫県ビームラインの産業利用の促進

ア 兵庫県ビームライン等の管理運営

兵庫県がSPRING-8に整備している2本の県専用ビームライン(BL24XU、BL08B2)及び、放射光の産業利用支援拠点である兵庫県放射光研究センターの管理運営を行った。

イ 放射光産業利用の促進に向けた支援

(ア) 兵庫県ビームラインの利用提供

○利用機関：BL24XU 8機関、BL08B2 6機関、計13機関

※利用機関数は、各ビームラインの利用機関に重複があるため、計と一致しない。

○研究課題：BL24XU 4課題、BL08B2 13課題、計17課題

(イ) 企業への技術相談・助言

放射光に関心を持つ企業の技術相談に応じるほか、企業における活用事例を示して、企業のSPRING-8利用に向けた助言を行った。

○相談件数：15件

(ウ) 測定・解析等受託サービス

SPRING-8による測定を自社単独ではできない企業について、試料の測定から解析までを代行して行う受託サービスを実施した。

○受託件数：6件

ウ 産業利用促進のための普及・啓発

(ア) 産業利用報告会の共催

SPRING-8を用いた産業利用成果発表を通じて、放射光の有効性を産業界に周知するとともに、産業界ユーザーの相互交流を目的として、SPRING-8利用推進協議会等と共催で、産業利用報告会を開催した。

○開催日：令和6年9月10日(火)・11日(水) (科学技術館(東京都中央区))

○参加者数：216人

(イ) ひょうごSPRING-8賞の実施

SPRING-8の認識と知名度を高めるため、SPRING-8を活用した研究成果の中から、実用化・製品化につながり、社会経済全般の発展に寄与することが期待される研究成果を懸賞してきたが、第22回ひょうごSPRING-8賞は有識者による厳正な審査の結果該当なしとの結論に至った。

(2) イノベーションの創出に向けたプロジェクトの推進

ア マテリアルズ・インフォマティクス（MI）の活用促進

(ア) 放射光科学、計算科学及び情報科学の分野融合の強化

公益財団法人計算科学振興財団と覚書を締結し、MIに関する専門人材配置・人材育成・情報収集等の取組に関し相互に連携・協力して、産業界におけるMIの取組を促進した。

○負担金：3,000千円

(イ) 中小企業等のMIの活用支援

県ビームラインにおけるマテリアルズ・インフォマティクス活用のコーディネーター等を推進する人材を配置するとともに、マテリアルズ・インフォマティクスを活用する中小企業等を技術的に支援した。(企業等支援実績：1件)

(ウ) 兵庫県マテリアルズ・インフォマティクス研究会による人材育成

MIに関心のあるSPRING-8ユーザーで構成する「兵庫県マテリアルズ・インフォマティクス研究会」を運営し、関係機関とともにMI活用企業の裾野拡大に向けた講演会、実習等を開催した。

○講演会：令和6年8月19日(月)、令和7年1月29日(水)

○実習：令和6年8月～令和7年1月

イ 次世代電池・半導体シンポジウムの開催

次世代電池・半導体分野での技術開発拠点として企業・大学等の研究開発を活発化させることを目的に、最新動向や先端研究の話題、潜在力を発信するシンポジウムを開催した。

(ア) 次世代電池・半導体シンポジウム

○日時 令和7年1月20日(月) ホテル日航姫路

○参加者数：61人

令和6年度事業報告附属明細書

(令和6年4月～令和7年3月)

1 学術的研究の支援

- (1) 学術研究助成事業 1

2 教育機関の実践的教育の支援

- (1) 高専のロボコン参加への支援 4

3 科学技術の普及・啓発の推進

- (1) ひょうご科学技術トピックスセミナー 5
(2) 国際フロンティア産業メッセ 5

4 青少年に対する科学技術の普及・啓発の推進

- (1) サイエンスボランティア支援事業 6
(2) 青少年のための科学の祭典 7
(3) サイエンスフレンドシップ事業 7
(4) 科学の甲子園ジュニア全国大会への協賛 7

5 産学官連携体制の強化

- (1) 企業・大学院連携研究事業 8

6 技術高度化と研究開発の支援

- (1) 技術高度化研究開発支援助成事業 9
(2) ものづくり支援センター播磨 技術指導事業 10
(3) 成長産業育成のための研究開発支援事業への参画 11
(4) ものづくりの高度化支援 11

7 企業イノベーションの推進

- (1) 中小企業交流団体等への支援事業 13
(2) ものづくり共創セミナー 15

8 兵庫県ビームラインの産業利用の促進

- (1) 兵庫県ビームライン等の管理運営 16
(2) 放射光産業利用の促進に向けた支援 16
(3) 産業利用促進のための普及・啓発 17

9 イノベーションの創出に向けたプロジェクトの実施

- (1) マテリアルズ・インフォマティクスの活用促進 17
(2) 次世代電池・半導体シンポジウムの開催 18

公益財団法人ひょうご科学技術協会

1 学術的研究の支援

(1) 学術研究助成事業

自然科学分野の研究活動を支援するため、県内の研究者から研究計画を募集し、研究資金の助成を行った。

ア 助成金の交付等

令和5年度に公募、選定した下表の研究計画に対して令和6年度に助成金を交付した。

また、研究助成金の「贈呈式」と「研究発表会」をラッセホールで行った。

- ・令和6年度助成対象者：36名（通常枠 33名 特別枠 3名）
- ・1件あたりの助成額：1,000千円 ※特別枠は、1,000千円/件・年（最大3年間継続可）
- ・応募件数：129件（通常枠）※特別枠の新規募集は、令和5年度分まで

(50音順・敬称略)

系分類	氏名	所属	役職	研究内容
医学・薬学・看護系	浅原 俊一郎	神戸大学医学部 附属病院	病院講師	膵β細胞におけるmTORC1活性亢進が膵島可塑性に及ぼす影響の解明
	岡田 守弘	理化学研究所 生命機能科学研究 センター	客員研究員	がん悪液質を改善する新規治療法の探索
	小谷 武徳	神戸大学大学院 医学研究科	助教	細胞間シグナルCD47-SIRPα系の阻害を利用した新規がん治療法
	佐々木 良平	神戸大学医学部 附属病院	教授	過酸化チタンナノ粒子を用いた内因型・がんワクチン療法の新規開発
	中村 誠	神戸大学大学院 医学研究科	教授	乳酸輸送・情報伝達病としての緑内障の病態解明と特定臨床研究による治療探索
	福本 毅	神戸大学大学院 医学研究科	准教授	がんにおける一次繊毛の動的挙動の解明と薬剤耐性
	船越 洋平	神戸大学医学部 附属病院	助教	レパトア解析を用いた新規抗原反応評価法による「真のネオアンチゲン」の同定
	水島 恒裕	兵庫県立大学 大学院理学研究科	教授	ユビキチンリガーゼを利用した病原細菌タンパク質分解誘導剤の開発
	由留部 崇	神戸大学医学部 附属病院	助教	化膿性脊椎炎の早期制御を目指したゼラチンハイドロゲル徐放化抗菌薬局所治療
	龍野 洋慶	神戸大学大学院 保健学研究科	講師	高齢者施設の科学的介護に役立つAIシステムの構築と臨床応用に関する研究

系分類	氏名	所属	役職	研究内容
生命科学・農学系	井上 一哉	神戸大学大学院 農学研究科	教授	地下ダムの水質汚濁・濁水を同時予測する人工知能の創生
	緒方 英明	兵庫県立大学 大学院理学研究科	教授	異化的硫酸還元酵素の構造解析による硫酸代謝機構の解明
	佐賀 達矢	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科	助教	クロスズメバチの女王とオス、働き蜂はどのような餌種を分配されているのか？
	桜井 一	兵庫県立大学 大学院理学研究科	助教	2型糖尿病における膵臓β細胞『疲弊』のメカニズムの解明
	柴田 直樹	兵庫県立大学 大学院理学研究科	准教授	バクテリアが産出する顆粒状構造体のバイオリクター利用のための基盤研究
	林 紗千子	兵庫県立大学 大学院理学研究科	特任助教	tRNAイントロンと多彩な細胞機能を繋ぐ因子の同定
	森垣 憲一	神戸大学 バイオシグナル総合研究センター	教授	パターン化人工膜を用いた光合成分子機構の研究
理学系	阿部 将大	武庫川女子大学 薬学部	助教	メカノレドックス反応を活用した無溶媒型ヨウ化アルキル合成法の開発
	Kweon Sang Hyo	神戸大学大学院 工学研究科	助教	スパッタ法によるエピタキシャルPLT強誘電体薄膜を用いたPEC反応CO ₂ 還元に関する研究
	黒澤 耕介	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科	准教授	隕石に残る衝撃変成度2分性：初期太陽系の軌道力学環境復元
	羽村 季之	関西学院大学 生命環境学部	教授	高密度型多環式シクロファン系の系統的合成と機能開拓
	平田 翼	神戸薬科大学 薬学部	助教	光エネルギーを活用した共役ポリエンへの付加反応の精密制御法の開発
	藤井 拓斗	兵庫県立大学 大学院理学研究科	助教	ワイル半金属における磁性とベリー曲率の磁場による制御機構解明
	牧 秀志	神戸大学大学院 工学研究科	准教授	高安全性を実現する二次電池用水系電解液の分子設計の確立

系分類	氏名	所属	役職	研究内容
工学・情報・学際系	大坂 藍	兵庫県立大学 大学院工学研究科	助教	強相関酸化物の構造因子制御による柔軟応答性の創出
	河合 孝太郎	神戸市立工業高等専門学校	准教授	3次元高ダイナミックレンジ形状計測を実現するダブルヘテロダイン同軸干渉計
	鋏田 泰子	神戸大学大学院 工学研究科	教授	地震時スロッシングによる配水池内沈殿物の舞い上がり機構の解明
	鈴木 望	神戸大学大学院 工学研究科	講師	ラビング法を用いたキラルポリマー粒子作製法の確立
	中後 大輔	関西学院大学 工学部	教授	正常歩行のための随意運動を促す歩行リハビリ装置の開発
	永瀬 隆	大阪公立大学 大学院工学研究科	准教授	溶液プロセスを用いたアップコンバージョン型低電圧有機発光ダイオードの開発
	中楯 龍	神戸大学大学院 医学研究科	准教授	軟性内視鏡手術支援ロボットの効果的な操作インターフェースの構築法
	松田 晶平	日本原子力研究開発機構物質科学研究センター	研究員	3価プラセオジム錯体における共鳴多光子電荷移動
	山口 秀文	神戸大学大学院 工学研究科	講師	兵庫津における明治初期地籍図の復元と歴史的なまちづくり資源に関する研究

イ 研究計画の公募・選定

令和7年度に助成する研究計画を公募し、応募のあった研究計画について審査委員会において審査した。

区分	通常枠
公募期間	9月2日～10月11日
応募件数	160件
採択件数	33件

2 教育機関の実践的教育の支援

(1) 高専のロボコン参加への支援

未来のエンジニアを育てる教育イベントとして年1回開催されている「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」(通称・高専ロボコン)に参加する県内2校の高専に対してロボットの製作費用等を助成した。ロボットの完成度やパフォーマンスとともに、テーマ設定やアイデア自体を競うもので、神戸市立工業高等専門学校と明石工業高等専門学校は助成金を活用して、創意工夫を重ねたロボットの制作に取り組んだ。

ア 競技課題 「ロボたちの帰還」

制限時間2分30秒の間に、ロボットが狙った場所に着地、オブジェクトを回収し、それを元の場所に持ち帰る競技。

イ 近畿地区大会概要

(ア) 日 時 令和6年10月6日(日)

(イ) 会 場 舞鶴文化公園体育館

(ウ) 出場チーム 近畿地区の7高専から合計14チームが出場

(エ) 結 果

ベスト4に進出した神戸市立高専Aチームが、全国大会出場校に推薦されるとともに、特別賞(株式会社安川電機提供)を受賞するなど、県内高専2校が優秀な成績を収めました。

ウ 全国大会概要

(ア) 日 時 令和6年11月17日(日)

(イ) 会 場 国技館

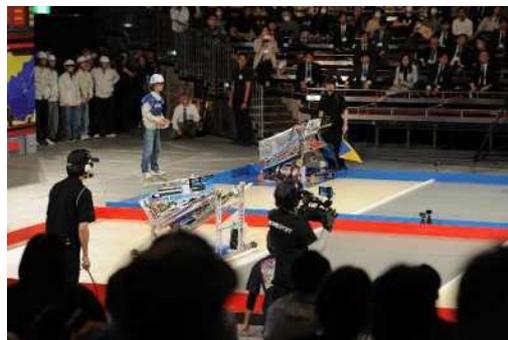
(ウ) 出場チーム 全国8地区から選ばれた26チームが出場

(エ) 結 果

神戸市立高専Aチームは、近畿地区大会以降も機器の更なる改良等を行い、全国大会に出場しましたが、残念ながら初戦で敗退しました。



近畿大会での競技の様子



全国大会での競技の様子

3 科学技術の普及・啓発の推進

(1) ひょうご科学技術トピックスセミナー

科学技術の各分野における第一人者を講師に招き、最先端の話題をわかりやすく紹介する、第42回「ひょうご科学技術トピックスセミナー」を実施した。

福井県立大学 准教授の河部 壮一郎先生にデジタル技術を活用した恐竜研究の最先端についてわかりやすくお話いただいた。

- ア 日 時 令和7年2月1日(土) 14:00～15:30
- イ 場 所 神戸ポートピアホテル
- ウ 講 師 福井県立大学恐竜学研究所 准教授
河部 壮一郎 氏
- エ テーマ 「デジタル技術を用いた恐竜研究」
- オ 参加者 83人



セミナーの様子

(2) 国際フロンティア産業メッセ

21世紀に飛躍する新産業の創出を促進するため、「国際フロンティア産業メッセ2024」実行委員会の構成団体として共催した。

また、当協会が支援している18企業、兵庫県内の理工学系大学（高専を含む）10校と合同で「ひょうご科学技術協会グループ」としてグループ出展した。

- ア 開催日 令和6年9月5日(木)～6日(金)
- イ 会 場 神戸国際展示場 1・2号館
- ウ 入場者数 約15,400人
- エ 当協会の出展

(ア) ひょうご科学技術協会(1小間)

(イ) 企業のグループ出展(18社、17小間)

- ①浅田化学工業(株)(姫路市)、②(有)アトリエケー(姫路市)、③(株)江渕工業所(姫路市)、④エムズ(明石市)、⑤岸本工業(株)(姫路市)、⑥ケイ・マック(株)(姫路市)、⑦ケニックス(株)(姫路市)、⑧SKYLAB(株)(姫路市)、⑨(株)セシルリサーチ(姫路市)、⑩大興化成(株)(姫路市)、⑪龍野コルク工業(株)(たつの市)、⑫田中繊維(株)(加古川市)、⑬西日本衛材(株)(たつの市)、⑭西村製作(株)(たつの市)、⑮日章興産(株)(太子町)、⑯兵庫県手延素麺(協組)(たつの市)、⑰(株)フジソレノイド(太子町)、⑱(有)マルブン(たつの市)、

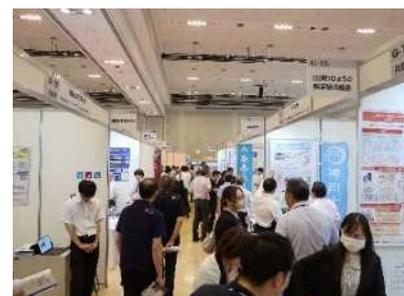
(ウ) 大学・高専のグループ出展

(8大学・2高専、10小間)

- ①関西学院大学、②吉備国際大学、③甲南大学、④神戸学院大学、⑤神戸大学、⑥姫路大学、⑦姫路獨協大学、⑧兵庫県立大学、⑨国立明石工業高等専門学校、⑩神戸市立工業高等専門学校



開会式



会場内の様子

4 青少年に対する科学技術の普及・啓発の推進

(1) サイエンスボランティア支援事業

青少年の科学に対する興味や関心を高め、科学技術への正しい理解を促進するため、科学実験や工作教室、自然観察など、地域で行うボランティア活動を支援した。

ア 県内の学校や企業、地域などにおいて、主として小学校高学年から中学生を対象として行う科学実験や工作教室、体験学習、自然観察などの事業

助成対象者	主な活動地域	開催日	助成金額(千円)	参加人数(人)	活動内容
竹内 裕美	佐用町	8月10日ほか(全4回)	17	47	コスミックレジン西はりま(星座傘の作成、望遠鏡の仕組み)
村瀬 吉孝	川西市	7月13日ほか(全14回)	180	137	技術工作教室(ラジオの製作、からくり機構など)
神戸大学・農学研究科 宇野 知秀	神戸市	11月9日(全1回)	104	9	大豆や米などの農産物に含まれている成分を調べる
寺子屋クラブ 山中 修	神戸市	7月20日ほか(全9回)	58	107	子ども科学実験教室(お天気とニ測候所、光の反射、光の性質など)
レイラ・ジャパン 香田 達也	神戸市	7月20日ほか(全6回)	180	99	ひよどりキッズ・サイエンスラボ(野菜・果物の不思議、単位の世界など)
青少年と科学技術を楽しむ会 武市 久仁彦	神戸市・明石市 三木市	7月21日ほか(全9回)	64	238	青少年のための電子工作、実験教室(ラジオ・ワイヤレスマイク製作など)
舞子天文同好会 穂積 正人	尼崎市・三木市 淡路市・西宮市 加古川市	7月27日ほか(全9回)	136	276	星の観察会・小型望遠鏡製作・プラネタリウム上映など
小 計			739	913	

イ 県内の小学校・中学校で理科教育を行う者に対して、科学実験、自然観察、教材製作等について指導・助言を行う事業

助成対象者	主な活動地域	開催日	助成金額(千円)	参加人数(人)	活動内容
かがく教育研究所 髯本 格	加古川市	7月13日ほか(全9回)	200	357	かがくカフェ(観察・実験・工作の講習と交流会)

【 事業合計 】			939	1,270	
-----------------	--	--	-----	-------	--



事業活動の様子

(2) 青少年のための科学の祭典

楽しい科学実験や科学工作などを通じ、子供たちが自ら体験し、科学に対する興味や関心を高めるため、「青少年のための科学の祭典2024」を県内5会場（神戸、東はりま、姫路、豊岡、丹波）において各会場大会実行委員会等と共に開催した。

開催日	開催場所		参加人数
7月27日・28日	豊岡会場	兵庫県立但馬文教府	474人
7月28日	丹波会場	ゆめタウン「ポップアップホール」	467人
8月03日・04日	東はりま会場	加古川総合文化センター	1,631人
8月17日・18日	姫路会場	兵庫県立大学姫路工学キャンパス	1,603人
9月07日・08日	神戸会場	バンドー神戸青少年科学館	4,920人
夏休み時期の土・日曜日に、延べ9日開催			9,095人

(3) サイエンスフレンドシップ事業

理系大学生・大学院生により、研究内容の魅力などを高校生にアドバイスする「サイエンスカフェ」を開催するとともに、県内の高校にアドバイザーとして派遣し、研究の支援などを行う事業に、後援ならびに助成を行った。

ア サイエンスカフェの開催

① 「10th Science Conference in Hyogo」

開催日：令和6年7月14日(日)、会場：神戸大学百年記念館

② 特別講義

開催日：令和6年12月7日(土)、会場：県立神戸高校

③ 「第17回サイエンスフェアin 兵庫」

開催日：令和7年1月26日(日)

会場：甲南大学FIRSTラウンジ（ポートアイランドキャンパス内）

イ アドバイザー院生の派遣

研究活動を行っている高校からの要請に応じ、大学院生や大学生をアドバイザーとして派遣し、高校生の活動を支援した。理系女子大学院生等を派遣し、女子生徒の理系進学の支援を行った。

(4) 第12回科学の甲子園ジュニア全国大会への協賛

全国の中学生在が都道府県を代表して科学の思考力・技能をチームで競う「科学の甲子園ジュニア全国大会（主催：科学技術振興機構）が、令和4年度から6年度まで姫路市で開催されることとなり、引き続き協賛することとした。

・日時 令和6年12月13日(金)～15日(日)

・場所 アクリエひめじ

本県からは、市川町立市川中学校、明石市立大久保中学校の各3名が、1チームとなり力を合わせて専門に挑んだ。47チーム、282人が筆記と実技競技に取り組み、茨城県代表チームが優勝した。



5 産学官連携体制の強化

(1) 企業・大学院連携研究事業

兵庫県内のものづくり機能を有する兵庫県内大学の研究シーズと、研究開発型ものづくり企業の技術ニーズをマッチングさせ、地域産業の活性化及び企業の技術高度化の向上を図るとともに、当該大学の大学院学生の研究レベルの向上、視野の拡大など人材育成を図った。

・助成金交付対象大学及び金額

兵庫県立大学	3テーマ	900千円
神戸大学	2テーマ	508千円
甲南大学	1テーマ	300千円
神戸学院大学	1テーマ	150千円
計4大学	7テーマ	1,858千円

・助成内容

大学	研究課題	①指導教官名(所属、役職) ②大学院学生名(専攻、年次) ③共同研究企業名(所在地、担当者名)	助成額 (千円)
兵庫県立大学	段ボール紙のような空隙付チタン容器の形成技術開発	①原田泰典(工学研究科、教授) ②岡田翔汰(工学研究科・機械工学専攻、博士課程前期課程2年) ③福伸電機株式会社(神崎郡福崎町福田447-1、林 圭一)	300
	pH応答性ナノゲル微粒子の作製	①遊佐真一(工学研究科・准教授) ②白田苒里(工学研究科・応用化学専攻、博士前期課程1年) ③姫路科学株式会社(姫路市手柄2丁目121番地、華山泰央)	300
	木造住宅を対象にした地震後の残留変形角と地震時最大層間変形角の関係	①永野康行(減災復興政策研究科・教授) ②小谷菜央(減災復興政策研究科・減災復興政策専攻、博士課程前期課程2年) ③株式会社明神総合建設(姫路市夢前町神種666-1、吉岡隆道)	300
神戸大学	「かこっとなプロジェクト」における農福連携事業	①藤岡秀英(経済学研究科、教授) ②李金陽(経済学・経済政策専攻、博士前期課程1年) ③「かこっとな株式会社」(加古川市志方町高畑961-9、鷲尾吉正)	208
	山田錦の米ぬかを用いた化粧品の開発	①宇野知秀(農学研究科・教授) ②田中愛奈(農学研究科・生命機能科学専攻、博士前期課程1年) ③株式会社muni(三木市中自由が丘2丁目91、溝端ちあき)	300
甲南大学	活量調質水の簡便な品質確認と機能・効果の解析	①白井健二(フロンティアサイエンス学部、准教授) ②吉田秀平(フロンティアサイエンス研究科生命化学専攻、博士後期課程2年) ③有限会社リベラル(神戸市須磨区北落合5丁目17-26、久保田猛)	300
神戸学院大学	アセチル化油脂の機能性探索	①吉村征浩(食品薬品総合科学研究科、准教授) ②藤井文(食品薬品総合科学研究科、博士前期課程1年) ③株式会社カネカ高砂工業所(高砂市高砂町宮前町1-8、養川厚司)	150
計		4大学 7テーマ	1,858

6 技術高度化と研究開発の支援

(1) 技術高度化研究開発支援助成事業

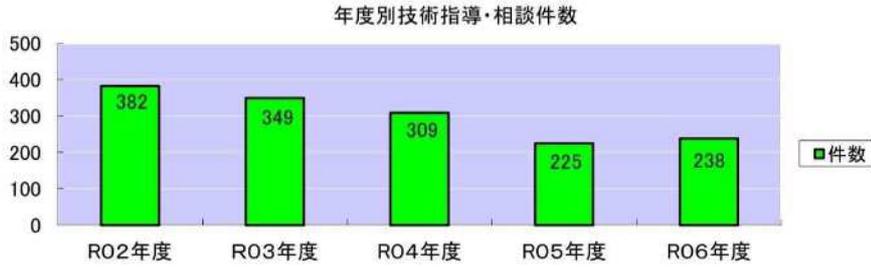
播磨地域に事業所を有する中小企業等が、新分野進出や新事業創出を図るために取り組む新技術・新製品の研究開発事業を公募、選考し、助成金を交付した。

- ・技術高度化研究開発支援助成企業：4 件
- ・助成総額：5,000 千円

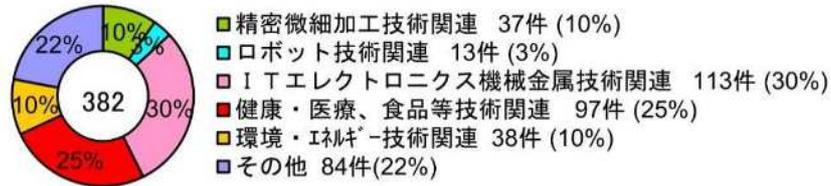
対象企業 (助成金額)	対 象 事 業 と 概 要
(株)ユメックス (1,500 千円)	<p>■ショートアークランプ寿命を3倍にする革新的W微細放熱構造形成</p> <p>ショートアークランプは半導体等の露光工程で利用される光源であり、露光工程の生産能力に適合するため、常に長寿命化が求められている。そのためには超高温となるランプ電極の放熱性能を上げて電極の蒸発抑制によるバルブの透過率減衰を抑制する必要があるが、既存技術では限界にきている。本事業ではさらなる長寿命化のために開発したHeプラズマ照射およびレーザー照射によるタングステン(W)微細構造形成技術を組合せる世界初の放熱構造を形成する。いずれも大きな表面積による高い放熱性とランプ電極用途に耐える耐熱性がある。弊社独自の2つの技術を合わせた放熱構造をランプ電極に形成することで、3倍程度の長寿命化が期待できる。</p>
(株)日本海水 (1,300 千円)	<p>■製塩過程で排出される脱塩海水を活用した微細藻類培養システム開発</p> <p>株式会社日本海水赤穂工場には、製塩工場と発電所がある。製塩工場からは、日当たり70,000キログラム以上の脱塩された海水が排出されており、通常の海水より清澄で塩分濃度が低い。また、発電所の熱によって冬季でも水温が20℃以上あるという特徴がある(以下、「脱塩海水¹⁾」という)。発電所からは、日当たり3,000メガリットル以上の燃焼ガスが排出されている。これら、脱塩海水と燃焼ガスに含まれる二酸化炭素を活用して、有用成分を含有する、もしくはそれ自体が養殖餌料となり得る微細藻類の培養システム開発を行う。</p>
(株)サンライト (1,100 千円)	<p>■ソーラー・LED・蓄電池を組み合わせた新しい商品の開発</p> <p>地球温暖化、産業廃棄物への対策などの環境問題に対応できる照明システムの開発・製造・販売を行っています。太陽電池関連商品の開発をベースに省エネルギーや省資源化に対応する製品づくりをいち早く推進してきました。自然のエネルギーを効率よく蓄電してLEDを点灯させるシステムで、エクステリアや公園・道路の誘導灯など、夜の景観を鮮やかに演出し、安全面はもちろん人と自然に優しい製品を開発します。</p>
大城戸織布 (1,100 千円)	<p>■端材等をリユースさせた高付加価値商品への展開事業</p> <p>従来の製織過程で発生する端材(房耳等)²⁾の視点を変えて材料と捉えニードルパンチという既存の方式で生地(布地)と端材を織り組織の中に押し込み密着させ、従来商品と差別化させた商品を開発べく当社の構想する使用目的や工場内スペースに合わせた仕様マシンを独自開発、製作する。</p> <p>今事業は、昨今のSDGs以前からあった勿体無い精神(嘗て着物や浴衣が綻びたら当て布で修繕し、ボロボロになったら雑巾として使い、果てには土壁の補強として壁に混入していた)にヒントを得て端材や残布の再利用や自社企画の生地と生地を合わせた他では類を見ない差別化を目指し、生地×端材で、新感覚の播州織生地として高付加価値ゾーン商品展開を構築していく。</p>

(2) ものづくり支援センター播磨 技術指導事業

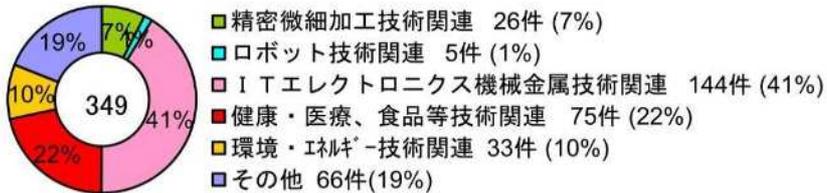
ものづくり支援センター播磨 技術指導・相談件数



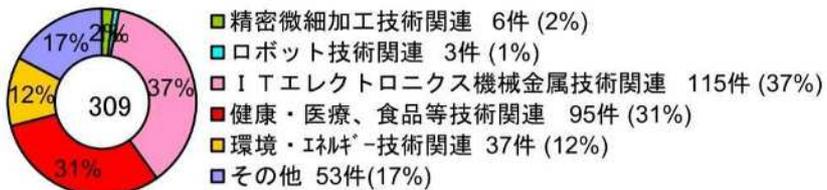
令和2年度 技術指導・相談分野別内訳



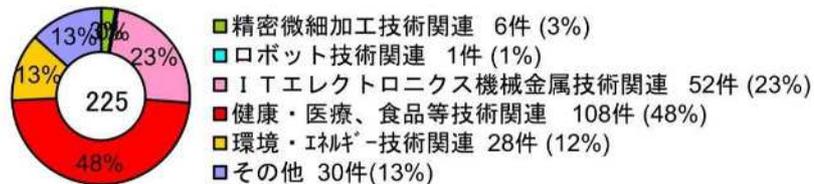
令和3年度 技術指導・相談分野別内訳



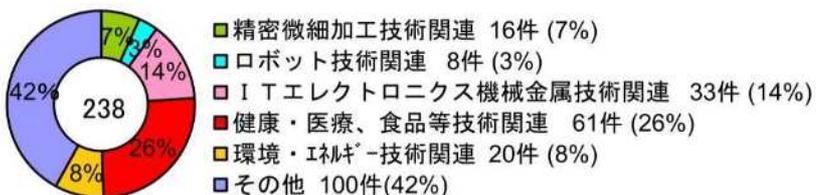
令和4年度 技術指導・相談分野別内訳



令和5年度 技術指導・相談分野別内訳



令和6年度 技術指導・相談分野別内訳



(3) 成長産業育成のための研究開発支援事業への参画

企業における新技術や新製品開発及び企業が抱える技術的な問題点等を効率的に解決するため、産学官連携による共同研究プロジェクト等を構築するとともに、成長産業育成のための研究開発支援事業へ代表機関(研究管理法人)として提案・応募し、採択されたプロジェクトの効果的な推進に係るコーディネートを行った。

- ・成長産業育成のための研究開発支援事業補助対象企業：2件
- ・助成総額：11,000千円

プロジェクト名	主な参画企業・機関・補助金額	事業概要
陸上養殖における環境に優しい革新的な除菌システムの開発 (令和5年度 「応用ステージ研究」2年目)	①(株)セシルリサーチ ②兵庫県立工業技術センター ③鳥取大学 ④クルーシャル・クーリング・パフォーマンス(株) ⑤(公財)ひょうご科学技術協会 (播磨産業技術支援センター) 補助金額:3,000千円	国内の食糧自給率の低下を解決するために、安定した生産が見込まれる陸上養殖が期待されている。しかしながら、魚病被害が頻発しており、陸上養殖普及を阻害する一因となっている。本研究開発では、超高輝度・高出力の短波長可視光による微生物除去技術という独自の特許技術を利用することによって、陸上養殖における魚病被害を、環境にもヒトにも優しく防止する世界初の可視光除菌システムの開発をめざす。
天然素材キチンの経鼻投与型新規ワクチンアジュバントへの開発と実用化に向けて (令和6年度 「応用ステージ研究」1年目)	①ヤエガキ醗酵技研(株) ②徳島大学 ③一関工業高等専門学校 ④(公財)ひょうご科学技術協会 (播磨産業技術支援センター) 補助金額:8,000千円	多くの感染症は粘膜を介し感染がはじまる。注射型ワクチンでは血中抗体を誘導することで感染後の重症化は防げるが、粘膜部における抗体誘導が難しいため感染を予防することは難しい。本研究では、天然食品由来のキチンの製造および改良技術を有するヤエガキ醗酵技研、そして経鼻ワクチンアジュバント研究を行っている徳島大学、一関高専とともにキチン由来物質がアジュバントとして応用可能性を検証しその実用化を目指す。

(4) ものづくりの高度化支援(ものづくり支援センター播磨)

従来、鉄鋼業を中心に発展してきた播磨地域の製造業は、近年電機機械器具製造業の進展が著しく、その産業形態が変化している。これらを支える要素技術は今後も飛躍的な発展が期待されている。

このような状況から、播磨産業技術支援センターに設置したものづくり関連機器(走査型電子顕微鏡(X線分析装置付))の管理・運営とともに関係企業の技術者を対象とする機器取扱い講習会を開催した。

- ・ものづくり関連機器利用件数等

設置場所	播磨産業技術支援センター
機器	・走査型電子顕微鏡(X線分析装置付)
利用件数	92件

・機器講習会の開催（会場：播磨産業技術支援センター）

内 容	開 催 日	参加者数(人)
・走査型電子顕微鏡(X線分析装置付) に係る講習会 講師：宮野医療器(株) 理器販売促進部 (株)IHI 検査計測 相生事業所	9月17日	3
	11月14日	1
	1月17日	1
	3月5日	2
合 計	4 回	7



走査型電子顕微鏡(X線分析装置付)

7 企業イノベーションの推進

(1) 中小企業交流団体等への支援事業

ア はりま産学交流会事業の支援（共催）

開催日	内 容	参加者数 (人)
5月17日	定時総会 特別講演会 ① 兵庫県立大学社会価値創造機構が目指すもの 兵庫県立大学 社会価値創造機構 副機構長 豊田 紀章 ② 水素・PFASなどの産業課題に取り組む分子シミュレーション技術 兵庫県立大学大学院 情報科学研究科 教授 鷲津 仁志	25
6月21日	創造例会（1） ① ライフステージを通じた健康づくりのための食生活 神戸学院大学 栄養学部 准教授 田丸 淳子 ② マイクロ波誘電過熱を利用したマイクロ波フライヤーの開発 兵庫県立大学大学院 工学研究科 准教授 河合 正 ③ サービスデザインゼミにおける産学連携プロジェクトの試行 近畿大学 経営学部 教授 布施 匡章 ④ 会員企業発表	32
7月19日	創造例会（2） ① 動画・拡張現実の制作を考える/AI技術と情報発信の関係 関西大学 総合情報学部 准教授 長谷 海平 ② ～生成AIのススメ～データがすごい 兵庫県立大学大学院 情報科学研究科 准教授 大島 裕明 ③ 未利用生物資源の活用 鳥取大学 工学部 教授 大城 隆 研究推進機構 未利用生物資源活用研究センター センター長 ④ 立木を残した斜面对策～立木の位置情報を正確に取得する～ 明石工業高等専門学校 都市システム工学科 教授 鍋島 康之 ⑤ 会員企業発表	40
9月13日 9月14日	視察研修（企業視察） (株)角屋食品、鳥取大学医学部付属病院 (株)メイワファーム、SAND BOX TOTTORI、(株)フジタ	11
10月18日	創造例会（3） ① 認知機能向上のための運動とは？！ 関西大学 人間健康学部 教授 弘原海 剛 ② 「はりま新産業創出エコシステム」の設立の狙いと活動内容 兵庫県立大学 社会価値創造機構 特任教授 長野 寛之 研究企画コーディネーター 松原 弘明 リサーチアドミニストレーター 大内 裕史 ③ 生成AIとの付き合い方 神戸大学大学院 国際文化学研究課 教授 村尾 元 ④ 人生100年、各企業が取り組む健康経営の事例と課題について 神戸学院大学 経営学部 教授 小川 賢 ⑤ 会員企業発表	28
11月22日	創造例会（4） ① 化学農薬の代替となるキャビテーションプラズマ殺菌水の開発 兵庫県立大学大学院 工学研究科 准教授 岡 好浩 ② 油脂由来の新規な高機能性樹脂の開発 兵庫県立工業技術センター 材料・分析技術部 主任研究員 今井 岳志 ③ 福祉のまちづくり、交通バリアフリー、健康なまちづくり 近畿大学 総合社会学部 准教授 北川 博巳 ④ 地域の未来を切り開く！住民協働の新たなアプローチ 鳥取大学 工学部 准教授 長曾我部 まどか ⑤ 会員企業発表	33
合 計		169

イ 播磨圏域ものづくりプラットフォームの活動支援(後援)

開催日	内 容
9月30日	播磨圏域ものづくりプラットフォーム EVシフトの現状とこれから～電動化の進展と課題を理解する～ (会場：姫路商工会議所)
3月17日	播磨圏域ものづくりプラットフォーム 循環経済への進展によるビジネスへの影響とチャンス ～次世代太陽電池・パネルリサイクル、バイオ、食～ (会場：姫路商工会議所)

ウ その他

当協会の事業紹介及び成果等の普及啓発のため、セミナーやシンポジウムに参画した。

事 業 名	内 容
第27回ひょうご技術交流大会	・開催日：6月26日 ・会場：神戸市産業振興センター ・主催：兵庫県工業技術振興協議会、兵庫県立工業技術センター ・後援：ひょうご科学技術協会ほか
スーパーコンピュータ・ソリューションセミナー2024	・開催日：9月26日 ・会場：神戸クリスタルホール ・主催：(公財)計算科学振興財団 ・後援：文部科学省、経済産業省、ひょうご科学技術協会ほか
兵庫県立大学 価値共創シンポジウム 2024	・開催日：9月26日 ・会場：姫路商工会議所 ・主催：兵庫県立大学価値共創シンポジウム2024実行委員会 (構成団体：兵庫県立大学、ひょうご科学技術協会ほか)
令和6年度 企業・大学・学生マッチング in HIMEJI2024	・開催日：11月15日 ・会場：兵庫県立大学姫路工学キャンパス体育館 ・主催：姫路地域産学官連携事業実行委員会 ・後援：ひょうご科学技術協会ほか
2024年度一般向けスパコン セミナー	・開催日：12月14日 ・会場：計算科学センタービル ・主催：兵庫県、神戸市、(公財)計算科学振興財団 ・後援：文部科学省、ひょうご科学技術協会ほか
生産性向上支援フォーラム	・開催日：1月28日 ・会場：兵庫県立工業技術センター ・主催：兵庫県、(公財)新産業創造研究機構 ・後援：ひょうご科学技術協会ほか
令和6年度産学官連携講座 「人材育成セミナー」	・開催日：3月3日 ・会場：兵庫県中播磨県民センター ・主催：姫路地域産学官連携事業実行委員会 (構成団体：兵庫県立大学社会価値創造機構、姫路市、姫路商工会議 所、兵庫県中播磨県民センター) ・後援：ひょうご科学技術協会ほか

(2) ものづくり共創セミナー

製品の企画・研究・開発・生産を、消費者や連携企業、大学・研究機関、自治体など様々な関係者と協力して行うことで、新製品の開発や多様化するユーザーニーズへの対応など、新たな価値を創出するという取り組みを推進することで地域の活性化に資することを目指して、ものづくりの高度化や新産業の創出に繋がる技術、情報を紹介する「ものづくり共創セミナー」を、関係団体と共に開催した。

	内 容	参加者数(人)
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日:8月23日(姫路商工会議所) ・テーマ:ヒントが見つかる!ロボット導入セミナー ～生産性の向上と人手不足の解消にむけて～ ・内容:①ロボット業界の動向と導入のポイント ・講師 一般社団法人日本ロボットシステムインテグレーター協会 佐々木 健雄 ・内容:②生産性向上、省力化にむけたロボット導入事例 ・講師 高丸工業株式会社 代表取締役 高丸 正 宮脇機械プラント株式会社 システム技術部マネージャー 小谷 晋也 ・内容:③支援機関によるお知らせ 公益財団法人新産業創造研究機構 技術支援部門 DX・ロボット部 部長 服部 智 	70
第2回 (令和6年 度ものづく りシンポジ ウム)	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日:12月3日(姫路商工会議所) ・テーマ:企業のビジネスチャンスへ!脱炭素セミナー ・内容:①カーボンニュートラル社会実現に向けた川崎重工グループの 取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・世界のカーボンニュートラルに向けた動き ・CO2排出量ゼロに向けたKawasakiの取り組み ～水素社会早期実現への取り組み、 脱炭素ソリューションの取り組み～ ・パートナー企業の皆様とともに ・講師 川崎重工業株式会社 企画本部 サステナビリティ推進部 環境企画課 課長 山本 敏之 	61
	合 計	131

8 兵庫県ビームラインの産業利用の促進

(1) 兵庫県ビームライン等の管理運営

兵庫県の委託を受け、県がSPring-8に整備している2本の県専用ビームライン(BL24XU、BL08B2)及び、放射光の産業利用支援拠点である兵庫県放射光研究センターの管理運営を行った。

・兵庫県ビームラインの概要

BL24XU (SPring-8初の専用ビームライン) H10年6月供用開始	BL08B2 H17年10月供用開始
<p>ミクロンサイズの細いビームと明るい輝度のX線が活用できるため、極小物質の分析等が得意。コンピューターやモバイル機器等の電子部品の結晶構造の評価や製薬等に活用されている。</p>	<p>ハンドリングしやすいX線ビームと、企業に人気の高い標準的な分析手法を幅広く提供。金属材料、ゴム、樹脂、自動車の触媒、リチウム電池材料など様々な材料評価に活用されている。</p>
  <p>BL24XU ハッチ ビームライン操作風景</p>	  <p>BL08B2 ハッチ 小角散乱装置(SAXS)</p>

・兵庫県放射光研究センターの概要

兵庫県ビームラインの利用支援機能と、企業等との共同研究機能を有する放射光の産業利用支援拠点

開 設：平成20年1月

施設内容：共同研究室10室、ビッグデータ生成室等

共同研究室入居機関：住友ゴム工業(株) (1室)、名古屋工業大学 (1室)、
(公財)高輝度光科学研究センター (3室)



兵庫県放射光研究センター

(2) 放射光産業利用の促進に向けた支援

放射光の産業利用を一層促進するため、兵庫県放射光研究センターを拠点に、兵庫県ビームラインやラボ版HAXPES(硬X線光電子分光装置)を活用し、企業への技術相談・助言や測定・解析等受託サービスの放射光利用支援等を実施した。

ア 兵庫県ビームラインの利用実績

区 分	BL24XU	BL08B2	計
利用機関	8 機関 (産業界5、大学等3)	6 機関 (産業界6、大学等0)	13 機関
研究課題	4 課題	13 課題	17 課題

※利用機関数は、各ビームラインの利用機関に重複があるため、計と一致しない。

イ 企業への技術相談・助言

放射光に関心を持つ企業の技術相談に応じるほか、企業における活用事例を示して、企業の SPring-8 利用に向けた助言を行った。

・相談件数：15 件

ウ 測定・解析等受託サービス

SPring-8による試料の測定から解析までを代行する受託サービスを実施した。

・受託件数：6 件

(3) 産業利用促進のための普及・啓発

放射光の研究成果や新たな産業利用分野の開拓など産業界に向けた情報提供を行い、産業利用の促進に向けた普及・啓発活動を実施した。

ア 産業利用報告会の共催

SPring-8 を用いた産業利用成果発表を通じて、放射光の有効性を産業界に周知するとともに、産業界ユーザーの相互交流を目的として、SPring-8 利用推進協議会等と共催で、「第 21 回 SPring-8 産業利用報告会」を開催した。

・開催日：令和 6 年 9 月 10 日（火）・11 日（水）

・開催場所：科学技術館（東京都千代田区）

・内容：口頭発表（21 件）、ポスター発表（57 件）、企画講演

・参加者数：216 人

イ ひょうご SPring-8 賞の実施

大型放射光施設 SPring-8 の認識と知名度を高めるため、SPring-8 を活用した研究成果の中から、実用化・製品化につながり、社会経済全般の発展に寄与することが期待される研究成果を懸賞してきたが、第 22 回ひょうご SPring-8 賞は有識者による厳正な審査の結果該当なしとの結論に至った。

9 イノベーションの創出に向けたプロジェクトの推進

(1) マテリアルズ・インフォマティクスの活用促進

放射光の産業利用ニーズの変化に対応するため、マテリアルズ・インフォマティクス（膨大なデータの解析から帰納的に新たな材料設計の指針を得る研究手法）の活用に向けた企業人材の育成等を実施した。

ア 兵庫県マテリアルズ・インフォマティクス研究会による人材育成

マテリアルズ・インフォマティクスに関心のある SPring-8 ユーザーで構成する「兵庫県マテリアルズ・インフォマティクス研究会」を運営し、マテリアルズ・インフォマティクス活用企業の裾野拡大に向けた講演会、実習等を開催した。

・開催実績

名 称	概 要
キャリア開発のための AI/機械学習	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日：①8月23日、②9月20日、③10月25日、④11月15日、⑤12月13日、⑥1月24日 ・講 師：㈱システム計画研究所 ・参加者数：45人
材料設計計算工学と データ駆動科学 フェーズフィールド法 入門	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日：①9月2日、②9月3日、③9月4日 ・講 師：東海国立大学機構 名古屋大学大学院工学研究科 材料デザイン工学専攻 教授 小山敏幸 氏 ・参加者数：延べ144人
データ駆動科学 基礎と Python による実践	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日：①9月13日、②9月27日、③10月4日、④10月11日 ・講 師：熊本大学 産業ナノマテリアル研究所 教授 赤井一郎 氏 ・参加者数：延べ169人
第 12 回 兵庫県マテリアルズ・ インフォマティクス講演会	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日：8月19日 ・講 師：熊本大学理学部 教授 水牧仁一郎 国立研究開発法人物質・材料研究機構 マテリアル基盤研究センター チームリーダ 田村亮 氏 ・参加者数：64人
第 13 回 兵庫県マテリアルズ・ インフォマティクス講演会	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日：1月29日 ・講 師：理化学研究所 計算科学研究センター 量子HPC連携プラットフォーム部門 佐藤三久 氏 理化学研究所 計算科学研究センター 量子系物質科学研究チーム 白川知功 氏 JSR株式会社 RDテクノロジー・デジタル変革センター マテリアルズ・インフォマティクス推進室 大西裕也 氏 ・参加者数：94人

(2) 次世代電池・半導体シンポジウムの開催

次世代電池・半導体分野での技術開発拠点として企業・大学等の研究開発を活発化させることを目的に、最新動向や先端研究の話題、潜在力を発信するシンポジウムを開催した。

ア 次世代電池・半導体シンポジウム

- ・日 時 令和7年1月20日(月) 13:00～17:20
- ・会 場 ホテル日航姫路
- ・参加者数 61人



セミナーの様子

貸借対照表

令和7年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度(A)	前年度(B)	増減(A－B)
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	45,460,836	39,373,663	6,087,173
未収金	25,082,313	35,582,023	▲ 10,499,710
前払金	330,328	356,155	▲ 25,827
流動資産合計	70,873,477	75,311,841	▲ 4,438,364
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
国債公債	200,000,000	200,000,000	0
基本財産合計	200,000,000	200,000,000	0
(2) 特定資産			
科学技術振興基金	3,932,168,102	3,932,168,102	0
播磨産業活性化基金	950,000,000	950,000,000	0
減価償却引当資産	6,634,182	6,634,182	0
特定資産合計	4,888,802,284	4,888,802,284	0
(3) その他固定資産			
投資有価証券	5,614,760	5,614,760	0
什器備品	84,906	177,526	▲ 92,620
ソフトウェア	237,600	447,150	▲ 209,550
電話加入権	601,720	601,720	0
その他固定資産合計	6,538,986	6,841,156	▲ 302,170
固定資産合計	5,095,341,270	5,095,643,440	▲ 302,170
資産合計	5,166,214,747	5,170,955,281	▲ 4,740,534
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	9,342,952	8,419,306	923,646
前受金	0	2,772,000	▲ 2,772,000
預り金	347,369	706,205	▲ 358,836
賞与引当金	3,540,995	3,643,891	▲ 102,896
流動負債合計	13,231,316	15,541,402	▲ 2,310,086
負債合計	13,231,316	15,541,402	▲ 2,310,086
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
補助金	3,173,829,042	3,173,829,042	0
寄附金	1,818,339,060	1,818,339,060	0
指定正味財産合計	4,992,168,102	4,992,168,102	0
(うち基本財産への充当額)	(200,000,000)	(200,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(4,792,168,102)	(4,792,168,102)	(0)
2. 一般正味財産	160,815,329	163,245,777	▲ 2,430,448
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(96,634,182)	(96,634,182)	(0)
正味財産合計	5,152,983,431	5,155,413,879	▲ 2,430,448
負債及び正味財産合計	5,166,214,747	5,170,955,281	▲ 4,740,534

正味財産増減計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度 (A)	前年度 (B)	増減(A-B)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	4,009,086	4,039,599	▲ 30,513
特定資産運用益	74,264,121	74,485,235	▲ 221,114
事業収益	103,797,556	116,485,012	▲ 12,687,456
運営費補助金	24,182,634	17,904,000	6,278,634
受取補助金	11,000,000	11,000,002	▲ 2
受取負担金	0	2,133,805	▲ 2,133,805
受取寄付金	0	10,000,000	▲ 10,000,000
雑収益	1,815,480	2,083,805	▲ 268,325
経常収益計	219,068,877	238,131,458	▲ 19,062,581
(2) 経常費用			
事業費	209,526,751	229,160,361	▲ 19,633,610
役員報酬	9,228,000	9,194,667	33,333
給料手当	23,161,867	28,130,083	▲ 4,968,216
賞与引当金繰入額	2,561,121	2,697,024	▲ 135,903
福利厚生費	8,190,452	8,178,090	12,362
会議費	146,641	35,120	111,521
旅費交通費	1,395,737	1,522,813	▲ 127,076
通信運搬費	1,489,195	1,195,811	293,384
什器備品費	579,950	5,550,635	▲ 4,970,685
消耗品費	3,572,600	5,599,929	▲ 2,027,329
修繕費	5,635,300	1,726,780	3,908,520
減価償却費	302,170	310,420	▲ 8,250
印刷製本費	1,415,425	1,431,782	▲ 16,357
燃料費	31,685	26,562	5,123
光熱水料費	4,024,323	3,772,994	251,329
賃借料	5,841,693	5,573,141	268,552
ビームライン成果専有使用料	6,474,000	14,664,000	▲ 8,190,000
保険料	1,429,257	1,428,060	1,197
諸謝金	3,893,400	3,248,200	645,200
租税公課	1,157,200	1,828,800	▲ 671,600
支払負担金	6,602,650	6,528,446	74,204
支払助成金	54,434,804	57,457,104	▲ 3,022,300
委託費	67,757,392	68,866,327	▲ 1,108,935
雑費	201,889	193,573	8,316
管理費	11,972,574	12,163,068	▲ 190,494
役員報酬	1,280,000	1,280,000	0
給料手当	2,553,991	1,989,702	564,289
賞与引当金繰入額	342,700	300,451	42,249
福利厚生費	323,545	266,702	56,843
会議費	8,272	12,408	▲ 4,136
渉外費	12,080	15,600	▲ 3,520
旅費交通費	83,368	117,530	▲ 34,162
通信運搬費	388,787	385,503	3,284
消耗品費	122,291	135,379	▲ 13,088
印刷製本費	244,900	225,390	19,510
光熱水料費	129,786	128,926	860
賃借料	2,299,646	2,143,880	155,766
保険料	235,886	207,716	28,170
租税公課	32,250	32,650	▲ 400
支払負担金	333,925	333,925	0
委託費	3,128,222	4,130,131	▲ 1,001,909
雑費	452,925	457,175	▲ 4,250
経常費用計	221,499,325	241,323,429	▲ 19,824,104

科 目	当年度 (A)	前年度 (B)	増減(A-B)
当期経常増減額	▲ 2,430,448	▲ 3,191,971	761,523
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
除却損失	0	2	▲ 2
什器備品除却損	0	2	▲ 2
経常外費用計	0	2	▲ 2
当期経常外増減額	0	▲ 2	2
当期一般正味財産増減額	▲ 2,430,448	▲ 3,191,973	761,525
一般正味財産期首残高	163,245,777	166,437,750	▲ 3,191,973
一般正味財産期末残高	160,815,329	163,245,777	▲ 2,430,448
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	0	0	0
受取兵庫県基金造成費補助金	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	▲ 10,000,002	10,000,002
当期指定正味財産増減額	0	▲ 10,000,002	10,000,002
指定正味財産期首残高	4,992,168,102	5,002,168,104	▲ 10,000,002
指定正味財産期末残高	4,992,168,102	4,992,168,102	0
III 正味財産期末残高	5,152,983,431	5,155,413,879	▲ 2,430,448

正味財産増減計算書内訳表

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引等 消 去	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	2,004,544	2,004,542		4,009,086
基本財産受取利息	2,004,544	2,004,542		4,009,086
特定資産運用益	67,424,002	6,840,119		74,264,121
科学技術振興基金受取利息	51,852,315	6,840,119		58,692,434
播磨産業活性化基金受取利息	15,571,687			15,571,687
事業収益	103,797,556	0		103,797,556
ものづくり支援センター業務受託収益	3,804,500			3,804,500
ものづくり支援センター利用料金収益	336,056			336,056
放射光研究センター業務受託収益	76,813,000			76,813,000
放射光研究センター利用料金収益	16,370,000			16,370,000
放射光研究センター成果専有料収益	6,474,000			6,474,000
受取補助金等	34,911,052	271,582		35,182,634
受取ひょうご科学技術協会運営費補助金	23,911,052	271,582		24,182,634
受取兵庫県補助金	11,000,000			11,000,000
受取補助金等振替額	0			0
受取負担金	0	0		0
受取負担金	0	0		0
受取寄付金	0	0		0
受取寄付金等振替額	0	0		0
雑収益	1,383,926	431,554		1,815,480
受取利息	0	5,587		5,587
有価証券運用益	96,804	45,467		142,271
雑収益	1,287,122	380,500		1,667,622
経常収益計	209,521,080	9,547,797		219,068,877
(2) 経常費用				
事業費	209,526,751			209,526,751
役員報酬	9,228,000			9,228,000
給料手当	23,161,867			23,161,867
賞与引当金繰入額	2,561,121			2,561,121
福利厚生費	8,190,452			8,190,452
会議費	146,641			146,641
旅費交通費	1,395,737			1,395,737
通信運搬費	1,489,195			1,489,195
什器備品費	579,950			579,950
消耗品費	3,572,600			3,572,600
修繕費	5,635,300			5,635,300
減価償却費	302,170			302,170
印刷製本費	1,415,425			1,415,425
燃料費	31,685			31,685
光熱水料費	4,024,323			4,024,323
賃借料	5,841,693			5,841,693
ビームライン成果専有使用料	6,474,000			6,474,000
保険料	1,429,257			1,429,257
諸謝金	3,893,400			3,893,400
租税公課	1,157,200			1,157,200
支払負担金	6,602,650			6,602,650
支払助成金	54,434,804			54,434,804
委託費	67,757,392			67,757,392
雑費	201,889			201,889

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引等 消 去	合計
管理費		11,972,574		11,972,574
役員報酬		1,280,000		1,280,000
給料手当		2,553,991		2,553,991
賞与引当金繰入額		342,700		342,700
福利厚生費		323,545		323,545
会議費		8,272		8,272
渉外費		12,080		12,080
旅費交通費		83,368		83,368
通信運搬費		388,787		388,787
消耗品費		122,291		122,291
印刷製本費		244,900		244,900
光熱水料費		129,786		129,786
賃借料		2,299,646		2,299,646
保険料		235,886		235,886
租税公課		32,250		32,250
支払負担金		333,925		333,925
委託費		3,128,222		3,128,222
雑費		452,925		452,925
経常費用計	209,526,751	11,972,574		221,499,325
当期経常増減額	▲ 5,671	▲ 2,424,777		▲ 2,430,448
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				0
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
除却損失	0	0		0
什器備品除却損	0	0		0
その他損失	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0		0
当期一般正味財産増減額	▲ 5,671	▲ 2,424,777	0	▲ 2,430,448
一般正味財産期首残高	82,854,218	80,391,559		163,245,777
一般正味財産期末残高	82,848,547	77,966,782		160,815,329
II 指定正味財産増減の部				
一般正味財産への振替額	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	4,557,998,572	434,169,530	0	4,992,168,102
指定正味財産期末残高	4,557,998,572	434,169,530	0	4,992,168,102
III 正味財産期末残高	4,640,847,119	512,136,312	0	5,152,983,431

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
有価証券の評価基準は原価法であり、評価方法は総平均法である。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
什器備品及びソフトウェアの減価償却方法は、定額法で行っている。
- (3) 賞与引当金の計上基準
職員の賞与の支給に備えるため、支給見込み額のうち当事業年度負担額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
国債公債	200,000,000			200,000,000
小計	200,000,000	0	0	200,000,000
特定資産				
科学技術振興基金	3,932,168,102		0	3,932,168,102
播磨産業活性化基金	950,000,000			950,000,000
減価償却引当資産	6,634,182			6,634,182
小計	4,888,802,284	0	0	4,888,802,284
合計	5,088,802,284	0	0	5,088,802,284

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
国債公債	200,000,000	(200,000,000)	(0)	—
小計	200,000,000	(200,000,000)	(0)	—
特定資産				
科学技術振興基金	3,932,168,102	(3,842,168,102)	(90,000,000)	—
播磨産業活性化基金	950,000,000	(950,000,000)	(0)	—
減価償却引当資産	6,634,182	(0)	(6,634,182)	—
小計	4,888,802,284	(4,792,168,102)	(96,634,182)	(0)
合計	5,088,802,284	(4,992,168,102)	(96,634,182)	(0)

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位：円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
その他固定資産			
什器備品	1,994,405	1,909,499	84,906
ソフトウェア	1,089,000	851,400	237,600
合計	3,083,405	2,760,899	322,506

5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
第136回利付国債	197,562,000	205,473,800	7,911,800
第138回利付国債	640,000,000	652,480,000	12,480,000
第144回利付国債	100,771,000	101,660,000	889,000
兵庫県第4回15年公募公債	100,000,000	100,860,000	860,000
兵庫県第11回20年公募公債	200,000,000	205,960,000	5,960,000
兵庫県第17回20年公募公債	800,000,000	800,400,000	400,000
兵庫県第50回住宅供給公社債	150,000,000	150,000,000	0
兵庫県第52回住宅供給公社債	40,000,000	40,000,000	0
兵庫県第54回住宅供給公社債	15,000,000	14,959,365	▲ 40,635
兵庫県第13回道路公社債	15,000,000	14,959,365	▲ 40,635
北海道公募公債平成24年度第8回	100,000,000	102,470,000	2,470,000
愛知県平成22年度第8回公募公債	100,000,000	103,322,900	3,322,900
愛知県平成22年度第14回公募公債	100,000,000	104,461,000	4,461,000
愛知県・名古屋市折半保証第104回名古屋高速道路債	100,000,000	102,980,000	2,980,000
群馬県公募公債20年第1回	100,000,000	103,070,000	3,070,000
群馬県公募公債20年第5回	100,000,000	99,770,000	▲ 230,000
埼玉県第10回20年公募公債	100,000,000	103,600,000	3,600,000
静岡県第11回20年公募公債	120,000,000	123,684,000	3,684,000
静岡県第11回20年公募公債	80,000,000	82,473,200	2,473,200
静岡県第16回20年公募公債	100,000,000	102,100,000	2,100,000
静岡県第18回20年公募公債	400,000,000	396,920,000	▲ 3,080,000
大阪府第6回公募公債	99,980,000	103,777,200	3,797,200
京都府平成22年度第3回公募公債	99,980,000	103,979,500	3,999,500
福岡県平成22年度第1回15年公募公債	100,000,000	100,640,000	640,000
名古屋市第12回20年公募公債	100,000,000	102,870,000	2,870,000
京都市第9回公募公債	100,000,000	104,740,000	4,740,000
堺市平成22年度第1回公募公債	99,980,000	103,770,000	3,790,000
第116回地方公共団体金融機構債券	300,000,000	288,780,000	▲ 11,220,000
第8回三菱UFJ信託銀行社債(劣後特約付)	100,000,000	100,490,000	490,000
第8回三菱UFJ信託銀行社債(劣後特約付)	100,000,000	100,491,000	491,000
第75回国際協力機構債	10,000,000	9,741,000	▲ 259,000
オランダ水道金融公庫ユーロ円債	100,000,000	115,151,000	15,151,000
ソフトバンクグループ(株)第57回無担保社債	99,096,000	99,280,000	184,000
楽天グループ第18回無担保社債(社債間限定同順位特約付)	98,699,000	85,280,000	▲ 13,419,000
合 計	5,066,068,000	5,130,593,330	64,525,330

6 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金						
科学技術振興基金造成費補助金	兵庫県	3,173,829,042	—	—	3,173,829,042	指定正味財産
兵庫県成長産業育成のための研究開発支援事業費補助金	兵庫県	—	11,000,000	11,000,000	—	—
ひょうご科学技術協会運営費補助金	兵庫県	—	24,182,634	24,182,634	—	—
合 計		3,173,829,042	35,182,634	35,182,634	3,173,829,042	—

7 指定正味財産からの一般正味財産への振替額の内訳

(単位：円)

内 訳	金 額
経常収益への振替額	0
合 計	0

附 属 明 細 書

1 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表に対する注記2「基本財産及び特定資産の増減額及びその残高」に記載しているため、省略する。

2 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	3,643,891	3,540,995	3,643,891	0	3,540,995

財 産 目 録
令和7年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
現金 現金預金	現金	手元保管	運転資金として	0
	現金預金	普通預金 三井住友銀行姫路支店、姫路信用金庫本店	運転資金として	12,320,754
		当座預金 姫路信用金庫本店	運転資金として	11,140,082
		定期預金 三井住友銀行姫路支店、姫路信用金庫本店		22,000,000
	未収金	兵庫県ほか		25,082,313
前払金	(南)兵庫県職員互助サービスほか		330,328	
流動資産合計				70,873,477
(固定資産)				
基本財産	国債公債	愛知県債、埼玉県債	共用財産(うち公益目的保有財産50%、管理目的のために使用する財産50%)で、満期保有目的で保有。運用益を公益目的事業共通(50%)及び管理(50%)目的のために使用	200,000,000
	基本財産合計			200,000,000
特定資産	科学技術振興基金			
	国債公債	国債、大阪府債、堺市債、京都市債、名古屋高速道路債	共用財産(うち公益目的保有財産50%、管理目的のために使用する財産50%)で、満期保有目的で保有。運用益を公益目的事業共通(50%)及び管理(50%)目的のために使用	378,435,240
	投資有価証券	ソフトバンクグループ債、楽天グループ債、兵庫県道路公社債、兵庫県住宅供給公社債3件		258,238,000
	外国債券	オランダ水道金融公庫ユーロ円債		100,000,000
	普通預金	三井住友銀行姫路支店		20,000,000
	定期預金	三井住友銀行姫路支店		1,665,820
	国債公債	国債、兵庫県債、北海道債、福岡県債、静岡県債、群馬県債、名古屋市債、地方公共団体金融機構債、国際協力機構債	公益目的保有財産であり、満期保有目的で保有し、運用益を公益目的事業共通のために使用	3,170,000,000
	定期預金	三井住友銀行姫路支店		3,829,042
	科学技術振興基金合計			3,932,168,102
	播磨産業活性化基金			
国債公債	国債2件、愛知県債、静岡県債、京都府債、京都市債	公益目的保有財産であり、満期保有目的で保有し、運用益を技術振興事業のために使用	594,253,000	
投資有価証券	ソフトバンクグループ債、三菱UFJ信託銀行社債、楽天グループ債、兵庫県住宅供給公社債		355,217,000	
定期預金	三井住友銀行姫路支店		530,000	
播磨産業活性化基金合計			950,000,000	
減価償却引当資産	楽天グループ債、兵庫県住宅供給公社債2件 定期預金(三井住友銀行姫路支店)	固定資産の調達に充てるために保有し、運用益を管理目的のために使用	4,340,000	
			2,294,182	
減価償却引当資産計			6,634,182	
特定資産合計				4,888,802,284
その他 固定資産	投資有価証券			
	国債公債	国債2件、京都市債	満期保有目的で保有し、運用益を技術振興事業のために使用	5,584,760
	その他投資有価証券	姫路信用金庫出資証券	当座貸越契約締結に伴う出資	30,000
	什器備品	実体顕微鏡ほか	公益目的保有財産であり、管理目的及び技術振興事業のために使用	84,906
	ソフトウェア	3次元画像表示・計測機能ソフトウェア3D-VIEW	公益目的保有財産であり、技術振興事業のために使用	237,600
	電話加入権		管理目的のために使用	601,720
その他固定資産合計			6,538,986	
固定資産合計				5,095,341,270
資産合計				5,166,214,747
(流動負債)				
未払金 前受金 預り金 賞与引当金	未払金	委託費(県専用BL維持管理・運転支援業務)ほか		9,342,952
	前受金			0
	預り金	源泉所得税、住民税、社会保険料		347,369
	賞与引当金			3,540,995
流動負債合計				13,231,316
負債合計				13,231,316
正味財産				5,152,983,431